

## 美里町政策評価委員会 評価報告書

【平成24年12月21日】

担当評価委員	宮城大学 看護学部 教授 塩野悦子		
評価対象年度	平成24年度	施策担当課	子ども家庭課
分野分類名	健やかで安心なまちづくり		
評価対象	政策10／子育て支援の充実		
	施策30／働きながら子育てを行う家族を支援するための対策		
<b>意見内容</b>			
<p>「働きながら子育てを行う家族を支援するための対策」の具体的取り組みは、町の現状と課題を十分にとらえ、その改善のために必要不可欠な内容が含まれている。特に、(1)延長保育・一時預かり・学童保育及び障がい児保育事業の継続と充実、(3)認可外保育施設の継続支援、(5)育児支援の周知啓発の3点においては、今後も有効に展開されていくと思われる。また(2)総合こども園の整備推進、(6)幼保一体となった取組みの推進においては、施策11や今後の国の方針と照合しながら、具体的に展開されていくものと考えられる。しかし、美里町では、震災後の転入者、特に核家族の増加が見込まれ、今後も待機児童問題は継続することが予測されている。(4)保育ママ制度の導入検討が待機児童対策として非常に期待される場所である。目標値として平成26年度には待機児童ゼロを目指しているため、早急な対策を講じなければならない。10月31日・11月8日に施策担当課との調整では、特にこの待機児童問題の対応状況のヒヤリングと今後の具体的な対応について話し合った。</p>			
<b>美里町の待機児童問題への対応状況</b>			
<ul style="list-style-type: none"><li>・非常勤保育士の確保：0歳児概ね3名につき保育士1名という基準により、正職員に加え非常勤職員によって運営が賄われているのが現状。しかし選考時期が2月のため、すでに他自治体への採用が決まっていることが多い。そのため、非常勤の選考時期を見直すこと、非常勤の時給を1000円から1100円に引き上げるなどの対策を行っている。</li><li>・小牛田保育所分園の増室案：駅東地区への転入者増で、今後対応が迫られるのが小牛田地区の待機児童である可能性が高い。そこで、現在美里町立福祉複合施設の中に小牛田保育所分園1～2歳児と不動堂サービスセンターが併用しており、この不動堂サービスセンターをさるびあ館に移設し、その部屋を保育室として改修することで10名ほどの増員を図る計画が進んでいる。</li><li>・町外の認可外保育施設の施設助成金による財政流出の課題</li><li>・町における保育ママ制度の見込みへの懸念</li></ul>			

#### 今後の対応について

・待機児童施策の中でも、保育ママ制度は都市部では十分に需要があるものの、地方の町村での実施例は少ない。政策評価を確実にを行うためにも、住民の保育サービスに関するニーズ調査を実施して査定する必要があると判断した。内容は子育て情報源・各保育サービスの認識程度と意見等とした。12月上旬に健康福祉課の保健師を通じ、乳幼児医療の健診時、家庭訪問時、母子手帳交付時に依頼したり、また放課後児童クラブの保護者、保育所保護者（実施済み）を対象として、12月末まで取り組んでいる。

## 美里町政策評価委員会 評価報告書

【平成24年12月21日】

担当評価委員	宮城大学 看護学部 教授 塩野悦子		
評価対象年度	平成24年度	施策担当課	子ども家庭課
分野分類名	健やかで安心なまちづくり		
評価対象	政策10／子育て支援の充実		
	施策31／出産や子育てに不安な家族を支援するための対策		
<b>意見内容</b>			
<p>「出産や子育てに不安な家族を支援するための対策」の具体的な取り組みとして、まず、(1)子育て支援センターの職員体制と事業内容の充実においては、すでに効果が表れており、施策として今後も十分に意義のあることと評価できる。</p> <p>子育て支援センターの専従非常勤を1名から2名に増えた効果は、①利用者が増え、利用しやすくなったこと、②これまで実施できなかったイベントが可能になったこと、③職員の休息が可能になったことなどである。</p> <p>また、(2)赤ちゃん触れ合い体験等家庭教育に関する学習機会の提供、(3)各施設への相談窓口の設置による相談体制の拡充は、他の施策との連携により、今後も施策として実施されていくことが十分に評価できると思われる。</p>			